

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201628		
法人名	有限会社 ミニオンプレイス		
事業所名	グループホーム あいの里東倶楽部		
所在地	札幌市北区あいの里3条7丁目5番7号		
自己評価作成日	平成22年12月7日	評価結果市町村受理日	平成23年1月12日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201628&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201628&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

**グループホーム あいの里東倶楽部は「施設」ではなく「家庭」の再現を目指しています。**  
 入居者の皆様とスタッフは家族のような雰囲気の中で生活し、その中で信頼関係を太く、強いものにすべく日々努力しています。  
 当ホームは近隣のあいの里東小学校とあいの里東中学校と交流を続けており、学校を訪問して子供達のいきいきとした活動に触れて元気をいただいたり、子供達がホームを訪問して介護の職場を体験することによる総合学習なども実践されています。  
 この体験により、将来に介護の職場を目指そうと考えてくれる子供達が、一人でも増えてくれればと思います。  
 また、近隣の皆様には日頃より認知症介護に理解をいただき、応援してください、感謝しています。時には、自家栽培野菜をいただいたり、カラオケと一緒に歌ってくださり、入居のお年寄りはとても喜んでます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム あいの里東倶楽部」は閑静な新興住宅地に立地している。近くには小学校や中学校があり、学童や生徒との交流が定期的に行われている。民家を改築した2階建ての屋内は家庭的な造りで、玄関や居間などの共用空間には絵画や花々の装飾品が至る所に飾ってあり生活感もある。開設8年目を迎えて、運営者、管理者、ケアマネジャーの役員と職員は当初に目指した理念に立ち返り、利用者が家で暮らすような環境を家族と職員が支える方針を再確認して実践している。信頼関係を軸に利用者が自立した生活ができるように一つの信念の下で運営者と職員はケアの統一を図り、安心した環境を提供できるように取り組んでいる。町内会や近隣との関係を築く中で、運営推進会議では火災以外の防災についても話し合っている。火災避難訓練には町内会役員や近隣の方にも立ち会ってもらい、課題について話し合っている。また近隣の人との関係も良く、野菜などの差し入れや利用者と一緒にカラオケを楽しむなど近所付き合いが自然な形で行われている。利用者6人の生活を支えるケアを運営者と職員は常に話し合い、その都度最も良いケアを提供し、家族のように会話を交わし、利用者職員が相互に助け合うような雰囲気作りがなされている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	在宅の継続としての位置づけを理念に掲げ、介護スタッフ全員がベクトルを統一できるよう、常に目に触れることができる場所に掲示して理念共有を実践している	理念の中に「地域の皆様に理解・支援をいただける家」を盛り込み、地域の中で家族のように暮らす家を基本として据えている。理念を玄関ホールに掲げ、また職員ネームの裏にも記載し、利用者、家族中心の対応に繋げるよう意識して実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームが町内会に加入し、近隣や町内会役員の方々と普段から隣近所交流を行っており、畑で収穫した野菜を頂いたり、立ち話をしたり、冬場の除排雪協力など地域の一員となっている	町内会との関係を築き、運営推進会議や火災訓練などの協力が得られている。近隣からの野菜の差し入れや近隣の人が訪問してカラオケを楽しむなど、自然な形で住民と交流している。小学校や中学校の行事に参加する一方、体験学習などの学童や生徒の来訪もあり定期的な交流になっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の子供達に認知症サポーターになってもらい、子供達を通じて地域の皆様に認知症の理解を広げている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、入居者とその家族、地域町内会役員、近隣住民の皆様等に日頃の活動状況を報告し、意見を頂戴して今後の運営に反映できるようにしている	運営推進会議に参加しやすい土曜日に設定し、地域包括支援センターの職員、数名の家族と町内会役員や近隣の人の参加もある。会議では事業所の状況報告や外部評価の結果を報告し、避難訓練や災害についても話し合っている。議事録を整備し家族に送付している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市介護保険課とは緊密に連絡し合い、委託業務を実施し協力関係を保っている。また地域包括支援センターに入居者について情報発信し連携協力している	市の担当者に、事業所報告の中でアドバイスをもらい参考にしている。市の「介護雇用プログラム」推進事業を受託し、協力関係を密に取っている。介護認定の更新時には区の担当者から情報を得ている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「禁止対象となる具体的な行為」をいつもスタッフが目にする場所に掲示し、身体拘束についての理解を共有している。また玄関は日中の施錠は行っていない	身体拘束の内容を掲示して職員の意識化を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。その時の利用者の状況に合わせて、家族のように接し、場面ごとに必要な声かけをして安全に見守っている。日中は施錠せず、外出があればベルが鳴るようにして出入りを注意し、その場に応じた対応を心掛けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し、虐待についての理解を深めるよう努めており、管理者は常にスタッフ・入居者の態度や生活の様子を注意観察し、虐待にならないような環境をつくるようにしている		

グループホーム あいの里東倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護の実施主体は札幌市社会福祉協議会であり、成年後見制度は本人の住所地の家庭裁判所に申し立てる制度であることは理解しており、必要によっては弁護士を紹介して対応している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、文書でわかりやすく表現して説明している。金額面と退居の扱いについては十分理解していただけるよう心掛けている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の相談窓口及び苦情処理体制については契約時にご家族に説明しており、意見要望等は運営推進会議にて対応させていただいている	家族の来訪時に本人の状態を報告し、事業所から相談し意見を聞き出すように努めている。利用者一人ひとりの状況を見極めながら、家族と相談して利用者に合わせた対応を決めている。運営推進会議でも家族の意見を聞き、意見などがあれば持ち帰り、対応を会議で説明している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少数のスタッフであり、いつでも意見を言え、話し合えて、すぐ行動に反映できる体制である	少人数の家庭的な雰囲気なので、常に職員の意見を取り上げ検討している。運営者も現場に従事しているので、職員が安心して相談できる環境である。また休みなどの希望も入れて職員が働きやすいように配慮されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限りスタッフが意欲と目標を持って長く勤務できるよう勤務環境を整備し、労働負担が過度とならぬように配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の資格取得まではOJTを基本とし、その後は外部研修に参加できるよう配慮している。また、働きながら資格取得を目指す「介護雇用プログラム」を札幌市の委託を受けて行っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市北区のGH管理者連絡会の役員をしており、他のホームと交流があるので、今後3年以上の勤務のスタッフどうしの交流を行うこととしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限りご本人が一度ホームに来ていただき、お話をし、その中からご本人の要望等を聞き出すようにしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記の時にご家族の要望等を聞き出すようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記と同様		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とスタッフは家族のような関係で、みんなでできることをやり、助け合いながら生活していることを理解していただけるような雰囲気をつくっている		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは定期的に入居者の生活の様子を報告している。また、ご家族もできる限り訪問して面会されるように勧めている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の要望、ご本人の精神状態を鑑み、その時の状況に合わせて馴染みのよい関係が保てるように支援している	家族の協力で受診の帰りに、外食や買い物を楽しむ利用者もいる。過去には利用者の希望で遠方の墓参りに付き添うこともあった。家族と相談しながら、利用者の状態に合わせて対応している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが入居者どうしの関係を把握し、孤立しないよう声をかけ、争いが起きないように見守って支援している		

グループホーム あいの里東倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム側からは今後の支援を申し出ているが、ご家族の意向を尊重して自粛している場合もある		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から頂いたご本人の生活履歴と、ご本人との対話を通して、ご本人の意向の手がかりを探しながら、希望に添えるよう対応を検討している	利用開始時に生活歴の手掛かりとして、センター方式で情報を取っている。情報から会話を引き出して雪かきなど、できそうなことを試している。言葉に表せない場合は、利用者にとって最も良いことは何かを視点に介護計画に反映させている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの調査票やケアマネからの本人情報を収集し、これまでの暮らし方の把握に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフが入居者の生活リズムを観察し、現状のご本人ができることは何なのか、見守りと介助を通して把握するようにしている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホームの計画作成担当者が本人情報を基に、ご本人にとって今何が必要かを、ご家族がわかりやすい介護計画案を作成し、それをご本人、ご家族、スタッフが検討して介護計画に反映させている	利用開始時に事前の情報を基に、家族の意向を入れて介護計画を作成している。状態の変化やケアの内容が変わった時には計画書に追加し、6ヶ月ごとに更新計画を作成している。介護計画書を掲示し、職員が書き込んだ意見を見直しに反映させている。また介護計画書を家族に郵送し、家族意見欄に希望など書き込んでもらうようにして同意を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者別に日々の介護記録を作成し、スタッフがその内容を共有し、各入居者の介護計画の見直し活用している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	該当なし		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、交番、消防署、民政委員と連携して入居者の安全の確保に努めており、近隣小中学校との交流を通して地域の一員としての自覚を感じ取れるよう支援している		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の協力医院が適時に往診対応して、入居者の健康状態を把握している。緊急時及び入院対応も協力医院と連携し対応している	協力医の往診は定期的に月1回となっているが、他にも必要時には往診があり連携を密にしている。以前からのかかりつけ医の受診は家族が同行し、その際に口頭で状態を説明し、受診の状況を「連絡帳」に記載してもらっている。受診の結果は職員も共有している。	

グループホーム あいの里東倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近隣協力医院より看護師が訪問して入居者の健康状態を把握している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院と連携しご本人にとって適切な生活を送れるよう支援している		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応及び看取りに関わる指針」により適切に対応している	利用契約時に、事業所の方針を文書で説明している。病状に変化がある時は主治医の判断の下、家族と方針を話し合っている。医療行為が続く場合は入院先の希望を家族に聞き、または主治医の紹介などで入院方向になっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を修了したスタッフはいるが、全スタッフが救命対応できるように対応していきたい		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難誘導は消防計画により実行している。消防署、町内会を含めた訓練も実施済み。災害時の非常持ち出し品を準備済み	年に2回、夜間を想定した避難訓練を実施し、1回は消防署の協力の下で、町内会、近隣の人も見学として参加している。全職員が訓練後に報告書を書いて、避難での課題について話し合っている。運営推進会議では火災以外の災害についても話し合い、非常食や備蓄品なども準備している。職員の中には救急救命訓練の未受講の職員もいる。	利用者の急変や事故などに備え、全職員が定期的に救急救命の訓練を受けることに期待したい。
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは、ご本人のプライドを尊重し、さりげない誘導・声掛けを行うようにしている	苗字または名前に「さん」付けを基本にし、本人が希望する親しみやすい声かけをしている。個人記録は安全な場所に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の表情や行動から何をしたいかを察して、ご本人が意思を表したり、行動ができるように支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の行動パターンを把握し、その日にやりたいことをさりげなく聞き出し、他の入居者との調整を行い、できる限り希望に添えるように支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひげ剃りや化粧、その人らしい服装について支援している。訪問理美容を利用して、ご本人の希望に添えるよう支援している		

グループホーム あいの里東倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好は把握されており、メニューの希望が出た場合は入居者全員の合意の上、希望に添えるよう支援している。食事の支度や片付けはご本人の状態・得手不得手を考慮し、さりげなくお手伝いをお願いしている	利用者との会話などから好きな物や希望の物を把握して、日々の食事に取り入れている。畑で採れた野菜や近所の方からもらった食材を調理して食卓に載せることもある。利用者と職員は会話をしながら楽しく食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、毎月の体重測定や血液検査にて確認しており、かかりつけ医の指示のもと栄養補助食品を摂取してバランスを保っている。水分摂取も医師の指示のもと毎日管理している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にスタッフと共に口腔ケアを行っており、適宜に歯科医師が訪問し、診療とアドバイスをしていただいている。入れ歯も就寝前に洗浄し、清潔を保持するようにしている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の体調や便秘の状況を判断し、適切におむつやパットを使用し、可能な限り自立した排泄ができるよう支援している	排泄に注意が必要な方は介護日誌で排泄パターンを把握し適切に誘導している。個々に応じてさりげない声かけて誘導している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材は便秘になりづらいものを使用し、繊維質が多く摂取できるよう心掛けている。おやつでもヨーグルトや果物を摂取するようにしており、主治医とも相談しながら投薬を行っている		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調管理のため入浴は午前中に行っており、ご本人の納得のうえ喜んで入浴を楽しまれるよう支援している	入浴日は2～3日おきに設定して、楽しく入浴できるように支援している。午前中に入浴を行っているが、利用者は朝風呂ということで楽しんでいる。現在は入浴を拒否する方はいない。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活パターンを尊重し、お昼寝や休息ができるようにさりげなく		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬は管理者にて一元管理しており、スタッフは管理者より薬の目的、使用量、使用日時の指示を受け、症状の変化を見逃さないように努めて、適切な服薬状況を保てるよう支援している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人がお手伝いしていただけることをさりげなく支援し、好きなことを一つずつ増やして日常生活が楽しくなるように、いろいろなレクを通して支援している		

グループホーム あいの里東倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣を散歩に出かけられるように支援し、遠出を希望される場合はご家族と相談のうえ可能な限り支援するように努めている	利用者の体調を考慮しながら、近くの公園を散歩したり小学校に申し出て体育館を歩いたりしている。年に2～3回、外食を兼ねてカラオケ店に歌いに行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの使い方は、ご家族より金銭管理の依頼を受けて、ご本人またはご家族の希望に添って適切に使用できるよう支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の状況によりご家族と相談の上、可能な限り対応できるよう支援している		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にも季節ごとの壁飾りや、入居者の共同作品が飾られ、ほのぼのとした雰囲気を醸し出すようにしている。自然の光が取り入れられ、居間からは季節の花々や野菜・果物の移り変わりが楽しめ、ピアノやCDの音色で懐かしさの演出を工夫している	住宅改築型のグループホームで家庭的な雰囲気である。落ち着いた絵画や植物、近くの学校の生徒からもらった手紙などが飾られ、愛情が感じられている。共用空間は清潔でトイレや風呂も使いやすく、手すりも十分に設置されている。温度や音なども調整され、居心地よく過ごすことができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファーに座ったり、寝そべったりでき、こ上がりの畳の上で将棋を楽しんだり、昼寝ができるよう工夫している		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して、今まで馴染んでいた湯飲みや家具、布団などご本人が好んで使用していたものを居室に置いていただくようお願いし、心地よい自分のスペースを作れるように支援している	居室には花の名前が付けられ、ドアや室内も家庭的で落ち着いた造りである。利用者の馴染みの持ち物やタンスなどが持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。壁にも利用者が自由に家族の写真などを貼ることができる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレなど主要なカ所に手摺りを設置し床の段差を小さくしてつまずきや転倒防止に配慮している。階段も床の配色を変えて段がはっきりと見えやすい工夫をして安全な自立生活を支援している		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あいの里東倶楽部

作成日：平成 23年 1月 9日

市町村届出日：平成 23年 1月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	現在、救急救命訓練を受講済みの職員が2名であり、前年より2名少なくなっている。日中は受講済みの職員が常駐しているので、夜勤を担当する職員全員が受講することが望ましい。	夜勤を担当する介護職員は救急救命訓練を受講し、受講後3年以内に再受講を行う。	所轄消防署、防災協会が実施する救急救命訓練を受講できるように計画を立案し、介護職員が受講可能のように勤務体制を調整する。	作成日より1年間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。